

花森遊梨アンソロジー
アンドロメダによろしく



花森遊梨アンソロジー
アンドロメダによろしく

著者：花森遊梨

発行：ポピーズ・ライター

印刷所：しまや出版

連絡先：

yhuasen36@gmail.com

もくじ

・ 恥の多い夏、終わるゝ誠司（♂）と久留美（♀）ゝ P 2

・ 二人の後ろの道 P 7

・ 砂山・テセウス・そしてアオハル―青春のパーツをゆるふわにバラせ―

P 24

・ 立夏コールト Days P 37

・ ㊦ それぞれのハロウィン P 71

・ ライフサイクリング・クライミング―アンドロメダによるしく―

P 100

・ あとがき P 131

恥の多い夏、終わるゝ誠司（♂）と久留美（♀）ゝ

「綺麗な花火……」

気温的にはまだまだ夏。ところが暦は九月、天気は大雨、そんな異常気象真っ盛りの日のことである。

「俺たちの最後の夏の思い出が……」

「まあ、私たちの洗濯物が濡れて洗い直しになるよりは良かったのじゃない？」

日が落ちたらずぐにファイアできるよう、縁側に出しっぱなしにしていた花火

は恵みの雨にさらされていた。いや、火薬にとって湿気は大敵なので恵みの雨なんて表現は適切ではない。そもそもこういう大雨は地面に染み込まないので雨なのに渇水なんていうデブなんだけど餓死みたいな事態になるので名実ともに恵みの雨ではない。……らしい。

「とにかく、これで夏の思い出は最後ってことになるね」

「待て、気温的に夏はまだ終わってない。今からでも海に行けば」

「そう言っってこの前無理やり行った海に入水して58秒でアンドンクラゲに両足を刺されたのは誠司だったじゃん？」

「その後、足がパンパンになってアクセルもブレーキも踏めなくなった俺の代

わりに卒業検定以降、一切運転してない車で高速まで乗った久留美が突然覚醒したよな。『もう誰も私を止められない！次は国営武蔵丘陵森林公園

まで飛ばしてやるう！』って」

「で、当日は『気温が人間の体温並みにあるのはよく考えると異常気象だからやっぱ家にいるー』と言って結局出かけなかったのはよく覚えてる」

「つまり…俺たちは結局夏のレジャーをいっさいやらないまんまここまできてしまったんだ！！綺麗な花火はたった今しけちまったしな！」

「誠司の基準では夏日である限り夏だし、∞月も自分を∞月だと錯覚しているし、まだまだチャンスはあるんじゃない？」「今週の後半から九月がようやく

本来の自分に目覚めたりしなければな

…」

要は週の後半から気温が下がるのだ。気温がたかいのめずっと夏ということでは海でクラゲに刺されて公園で虫に刺されコンクリートのジャングルで熱中症になれるという魔の季節もとうとう終わりである。

だが、恥の多い夏を振り返ってばかりでは前に進めない。

「俺は秋のレジャーを今からでも探す。そして今度こそ秋らしい秋の時間を過ごしてやる！！」「そんなこと言って、秋のレジャーって夏ほど急には思いつかなくない？紅葉狩りとか味覚狩りとかさ」

「すぐ思いついてんじゃない」

バラバラになってもギリギリにはならない。一緒にいたいと思う限り、こうやって二人の関係はこれからも続いていく。

「いやいや、逆になってない？それじゃ突然モンロー主義に目覚めたゴージャスター○じゃん私たち」

二人の後ろの道

新しい年を迎えた

セミロングの髪に冬仕様の私服に身を包み、不思議と暗い印象はない暗闇を瞬く紫水晶の如き少女は浅い眠りから目覚めた。

おのぎき　しのぶ　彼女の名前は忍埼　忍

ここは彼氏の（実）家である。12月29日からずっと厄介になっている。

三が日はすでに過ぎた。親戚からお年玉をもらったし、

某神社の初詣の行列が生中継で大乱闘ス○ツシュ○ラザーズになる一部始終も
テレビで見た。

あとやることといえば一つだけだ。そのためにはこの家に巣食う彼氏を家の外
に出す必要がある。一度玄関に向かい、するべき準備を済ませた忍はあらため
て標的の部屋に向かう。

「ハルト、外に出かけよう。三が日も終わったし、冬休みを無駄遣いしてちゃ
あもったいないよ」

彼氏とやらはカーテンを締め切った部屋でテレビゲームに夢中である。これで
プレイしているのが魔族の王子が通りすがりの魔物を殴ってスカウトするゲー

ムとかルイジアナ州のジャックがパンチで新しい家族をスカウトするゲームとかならいいのだが。プレイしているのは配管工オヤジが主人公の世界初のアクションゲームであった。

「悪いが出かけたいなら一人で行ってくれ。おれはデカ島の人喰い花の駆除に忙しいんだ」

忍は黙って部屋に落ちていたリモートコントローラー。すなわちリモコンを拾い上げた

ーリモコンの強みとは耐久性である。

足音を忍ばせ

一 小学生のフルスイングですっぽ抜けて窓ガラスを叩き割り

有効射程に標

10

的をおさめる

一 ぶっちゃけ本物のトンファーと形状も強度も変わらない

今こそ、その力を生かす時だ

しのぶの「こうげき！」

はるとは コントローラーでこうげきをうけとめた！

「躊躇いもなく人の後頭部を狙いやがったなクソ忍め……！人体で唯一強度がス
ペランカー並の箇所につき強打したら確実に残機を失うと知っての狼藉だろ
うな！」

反撃で縦横に振るわれるゲームコントローラーのスイングを軽やかにかわしつつ忍は応じる。

「説明的な応酬をどうもありがとう、それなら最初から私にもう少しだけまともな対応をするべきだったね」

突き出されたゲームコントローラーを身体をひねって受け流し、その腕を下から掌握した。

勝負ありである。

「じゃ、私は先に河川敷に行っているから。なるべく早く来ること！少なくとも今テレビの中で人喰い花に頭から丸呑みにされてる配管工のオヤジ

よりは有意義な時間がまっているからね！」 「仕方ない、忍に付き合っ

意義な時間とやらを送るとするか」

そんなわけで忍は新年早々河川敷までやってきた。

それもただの川ではない、川幅が日本一の川の河川敷である（知るか）

—忍！！—

声の主は彼氏のハルトだ。フルネームは晴。新年早々カーテンも開けない私室に引きこもり、彼女がいるのにゲームを優先し、彼女にリモコンでしか来てようやく優先順位を切り替えるスロウス男。

「人をリモコンでぶん殴って良くもいけしやあしやあと遊びに行けたもんだな？」

「なんやかんや言いながらちゃんと河川敷までやってきてくれたじゃない、ハルトは私にはない協調性つてもものを持つてるよ」

現れたこの男、なかなかの上玉である。

墨で書いたような力強さ、それでいて毛並みがきれいで光沢がある男眉。

二重の幅が目尻側が太いことでどこかわいらしい印象を与える両目、大きく高く肉付きのいい鼻を中心に曲線が多く女性的な口…総じて「甘いマスク」

の特徴を揃えている。

この後成長過程を間違えずに年を重ね、各パーツにもう少し彫りが深くなればもう言うことはない。

「で、俺をワザワザ部屋から出してお前は何がやりたいんだ？」

「せっかく新しい年を迎えたんだし、二人で去年を振り返りたくってさ」「本気で言っているのかよ…お互い振り返れるような一年なんて送ってないってのに」

そんなハルトの去年一番の出来事はサッカー部、高校デビューするならこれしかない部活の王道に見事入部を果たしたことだ。そして今、チームにとって最後の砦を守り抜くポジションを務めている。

「ゴールではなくベンチキーパーとしてをしているならそう言った方がウケがいいと思うな」

そういう忍も高校で一旗上げたいと（当然ハルトに）言ってチアリーディング部に入部届を叩きつけた。…今は立派に第一線から離れてみんなに精神支援を与えている。

「つまり忍は高校に行けば何かあると思ってるタイプだ。そして高校を東京に変えれば六年後の未来も予言できちゃうな」

要はこいつら〜人とも高校デビューを目指し一念発起の自己投資の結果、中学時代は丸くて可愛い手のひらサイズの自己嫌悪がたった一年でビキニフィッ

トネス世界制覇レベルの美しいマッチョになり、新年あけましておめでとうと
裸神輿に乗って発酵あんこの自家製おはぎを大きな口で食べながら故郷に凱旋
してきたという現状である。

くろれきし

人が新しい生活を踏み出す時、その後ろには道が生まれる…

!!

「さ、そろそろ走ろうハルト」「話の流れをぶった斬りすぎじゃねえか？」

「暗くなったら走るのが一番。それを教えてくれたのはハルトのはずで
しょ？」

「…それを暗くした側から言い出すのがまさに忍の所業ってやつだよ」

言うが早いか忍は玄関から飛び出した時と同じように走っていつてしまった。
つまりあの時はコイツは人の家に土足で：

頭を走る雑念からは意識を逸らし、ワテンポ遅れてハルトも足を動かし始める。「走る」というのは、できない人間がほぼいないという特徴を持つ運動の異端児である。

体育が嫌いな人だって目の前の曲がり角からスター状態の人でも出てくれば踵を返して全力疾走できる。あえて仕事や指示をまっちゃんタイプのファンクだって遅刻しそうならニュートリノのスピードで新幹線を追い越して出張先に行ける。球技なんて嫌いなやつも、コミケ帰りに恥と戦利品が満載のカバンを通りすがりのスクーターに引ったくられさえすればその場

で覚醒！我こそがウサイン・ボルトオ！！

そして、長距離走が苦痛なのはペースができるまでで、それ以降は「暇」という特徴がある。その時間は機械的に足を動かしながら思う存分空想の世界へ行くこともできるのだ。

学校や会社の名前が書かれたタスキをかけて走る場合は壮絶な覚悟が必要だが、そうでない長距離走ほど「協調性皆無」とか「体育ができない人間」に向いている運動はない、中学時代は陸上部に所属しながらソロで学校の周りを走り続け、実質ひとりイマジネーションクラブを続けた結果、その年のマラソン大会では十位以内に入ることができた、体育では常に中の下であるハルトだったなので、こっそり金を賭けていた女子生徒たちに「そんなに走れるとは……」と驚かれたのを覚えている、その中心にいたのが忍埼忍であった。

大腿部に携帯電話の振動を感じた。

『置いていかないで』

遙か彼方で手を膝についているシルエットが見える。あれが忍だ。

忍は瞬発力重視のため、一緒に走るとだいたいこうなる。

早く戻ろう。あの体勢になった忍を放置すると、五分くらいで草むらめがけてゲロを吐き始めてしまう！

↓

「ハルトには肝心な部分で協調性がなさすぎるんだよ。そもそも体育は走る以外の道具やスキルをつさう科目になると急にダメになるのにどうしてサッカーとか」「さて、走って新年らしい気分になったしこのまま帰ろうか！」

「待つて待つて待てこめんなさい歩クスピードを上げないで置いていかないで……」

わがまま放題はこうして静かにさせるのが一番、これはハルトが去年学んだ数少ない有意義のひとつである。

「……よく考えれば私やハルトが新年が来たからってわざわざプレッシャーを感じるなんておかしい話じゃない？」

「私たちがスポーツとか勉強の特待生でおとしは無双しまくったので去年コケたのならば「みんながまったこの時間」とか「高校生枠と女性枠としかもプロ野球してない枠の三冠王としてプロ野球戦力外通告出演」みたいに芸能人の不倫に匹敵する誹りを受けるかもしれないよ？ 私たちがつまりダメだったと

しても「やっぱりな」とか「知ってた」くらいの評価しか得られないのに」

そう、この二人の新年はまだまだ始まったばかりだ。これから始まる二人を応援してほしい

「……って、結局俺たち新年以外は何も始まってなくないか？」　そう、冷静に見れば高校生二人が特に深い考えもなく外に出てなんか走ってやり遂げた気分のみを味わっているだけであり、新年以外は何も始まっていないのであった。

「それは悲観的な見方だよ。たった今、私たちの新しい目標が自動的に決まっ

た、「新しい一年を始めるところまでいく」という新しい目標が」

まあ、地域や暦によつては二月が正月だったりもするので、セーフなのだろう。

「企画段階でポシヤったコミックかよ」　とにかく新年は目標があろうが倒れようが何があつても始まるのである。

むしろ新しいスタートなんか新年に任せ、人は皆、悪魔のようにそれぞれの生き方を貫いてこそ人の生涯、すなわち人生を生きているのである

「とりあえず親戚からお年玉ももらったし、二人で何か食べに行こ？　こういう機会だからロイヤルホストがいい」

「忍は日銭が入るとそうやってすぐ使い込んでしまうからバイトから臨時まで収入があぶく銭に終わっちゃうんだぞ？　ここはサイゼリヤにしておくんだな」

「そういう晴翔はコスパタイパ言ってるうちに人生のスケールが小さくなってスポーツの世界大会とか見ても観客席の片付けの手間のことを考えてしんみりしてそうだよね」

今度こそ歩調を合わせて二人は歩んでいく。…どの店に行くは未定のまま。

とりあえず今年の経済には小型モーターが増設されそうである

砂山・テセウス・そしてアオハル―青春のパーツをゆるふわにバラ

24

せー

青春否定リスト

・クラスの集まりに不参加・ほんの些細なきっかけで男女や同性の交際を始める。

・コストを減らせるだけ減らす

―ユーアーデッド

十八歳以上かなんて愚問はしねえ、後払い決済サービスを利用して今すぐコンティニューしようぜ？

決済処理 完了！ご利用ありがとうございました。引き落とすべき銀行口座はわかっています

「コンティニューなんかにお金を使うんだ？」コンティニューなんかにお金を使える贅沢なコイツは田中。ここだけの話、生まれつきY染色体を持つ（遺伝子上は男である）

「なんでオメーはメガネを外したら犬飼貴丈そっくりなのにコンタクトにしないの？そうやってメガネを外したらイケメンをじっせんして世の中のメガネ男

どもを全員まとめてそんげん破壊するのが趣味なの？ スマホばかりやって漫画を描かない尾田っちなの？」

クソガキの介入

「やかましいんだ口の減らない心身共に痩せつぽちなクソチビが！！二度とあのツラ見せんな！！この場で男をわからせてやろうか！」田中、マセガキとクソガキのコンタクト融合体を一喝する。

ー今、艦隊ホースコレクションズのガチャを引くと、推しキャラのクレジットカードが新しく作れちゃうキャンペーン中！！課金枠をどんどん増やしていこう！

「小川も、推しキャラとかいないのかよ？」

「いるわけないじゃない。こんなもののまにか事前登録してた特典がいい感じだったんで、このままプレイしないのもどうかと思うからなんとなく続けるだけ」そんなソシャゲの楽しみをプチプチしてるコイツは小川、頭が良さそうに見えるという理由だけで伊達メガネをかけるなかなかのイロモノ。こう見えてX染色体を二つも持っている（女の子っていえ）

「どけよガキども。年金さえもらっておけば、こっちのものだよ。おまえらみたいな脳の腐った若いヤツらのことなんか知るか」邪悪なジジイの介入、いつも若人は老人に虐げられる…

「抜かしてんじゃねえぞジジイ……」

と思ったその時。男女両方の声の怒号が響いた

「文明が作り出した最も悪しき存在が人の真似をしやがって、年金だけじゃ暮らしていけねえからお情けで再雇用された分際で仕事は何もできないくせに臭い息を吐き散らすな脳足らずのバカが……」「家事もできない、育児もできない、介護もできない、役職もクソもねえのに頭ひとつ下げられない生ゴミがほざいてんじゃないよ！」

「挨拶を返さないその口で「最近の子どもは挨拶ができないねえ」と抜かすことが仕事なら今すぐセイウチのア……」

（ここから先はしばらく運営にファックスの単数形でしかかれかねないシーンが続きますので残念ながら割愛いたします）

「お互いソシャゲにすら楽しみを見出してないね」

「じゃあ残りのクラスメイトみたいに甲子園の応援に行って熱中症で意識失いつつアオハル！と叫んでそのまま死ぬ方がいいのか？」

公民館でジジイを口とそれ以外でしばいておいて今更かもしれないが、彼らは一文の得にもならないジジイハントに来たのではない。

「嫌だよ私は今年十六歳なんだよ死んだら走馬灯がショート動画より短くなるじゃん」

青春を否定しに来たのである。

全ての始まりは先週。通っている高校の野球部がクラスみんなは甲子園に出場し、思い上がった野球部が「クラスから人民を差し出し喜び団を作れ」など

と多様性を重視する総書記みたいなことを言い出したことに端を発する。

「いや、それは学校が勝手に気を遣ってるだけじゃない？それも貧乏神のテーマを作業用BGMにして」

「だから甲子園球場には「この場にいる全員が本気で勝利を願っている」というアナウンスと共にこの世の終わりと熱中症で死にそうな顔が観客席にズラリと並ぶわけだな」

そんなわけで、田（フルキラキラネーム）は、実はスタメンから二軍まで全員彼女（か彼氏）持ちの野球部の勝利を真に望んだ。そのために近所の病院に梅子の描かれた五千円を出してコロナ陽性にももらったのだ。

「アンタまでここに来てたの？」

その待合室で出くわしたのが小（フルネーム）だったのだ。クラスメイトに

して毎朝おはようというだけのオウム程度の関係であった。「いろいろあつてコロナ陽性になった。そっちはインフルエンザにしてもらったのかよ？」

「チッ」

ちなみに「おはよう」に毎朝舌打ちを返す、年号や出来事といった暗記科目が壊滅的など、小川の鳥レベルはクラスで一番だ。

ただ、その体には同年代に比べて明らかに無駄な肉が少ない、ちょっとした動作も機敏というかキレがある。何を隠そう、彼女を黒帯ぶら下げたリアルテコNDER。

うっかり後ろから抱きつこうとすれば顎をやられる。

「青春なんてね、やることないからみんなやってんのよ！学校はスマホとかあらゆる娯楽が禁止されている。だから性別職業問わず人が二人以上いれば昼間

から学校の非常階段でおっぱじめられる青春に走るのよ！」

「そこは未成年しかできないことをする！とか言ってホテルにINして淫らにIN行に決まってんだろ」

「ドッキングなんて人工衛星とか宇宙ステーションに任せておけばいいのよ。地上で生身の十代がやることじゃないわ」

そんなわけで、二人は青春を否定することにしたのだ

青春否定リスト

・クラスの集まりに不参加
・クリア青春の筆頭、強制的な集まりに参加しなかった

・ほんの些細なきっかけで男女や同性の交際を始める。

偶然あつてご都合主義も同然に一緒になったのでクリア

病院の待合室で

・コストを減らせるだけ減らす サイゼリヤにすら行かずに地元の公民館に行き、わざわざソシヤゲをしたのでクリア

「こうして私たちは汚い青春を減ぼすことに成功したわけね。お腹がすいたな、サイゼリヤにでも行こうか」

「サイゼリヤに行ったら炎上するんだろ？」「サイゼリヤを初デートに使うとネットが炎上する」という諺があるし」

「インプレになるじゃん？そういうことをする暇人は大抵リアルじゃ若い女に飯を奢って七、八人と下半身の関係を持ってる、その上にパパ活なんてできない、いたいけな女の子にもインプレを通して金をくれるんだから
も

うこれは慈善家」

「考えてみりゃあ炎上なんて甲子園優勝と同じでやろうとしてもやれないからこそみんなやりたがるし成功するとニュースになるもんだしな。」

老いと病の蔓延する呪われた公民館を旅立ち、聖地へと去った男と女。

新たな青春の物語がまた一つ。

青春とはくだらない束縛や強制がなくなった時、
自ずと見えてくるもの
だ。

立夏「コード Days

拝啓 立夏の候、心地よい五月晴れの折から、お元気にお過ごしのことと存じます。今日は五月五日。我が高校では休日なのであります。

その休日、おれは特別な人とホテルで時間を過ごすことにしていました。

「ホテル？行かなくていいよそんなもん。キャンセル料はあたしが払うからや」

こうして五月の休みはいきなり終わった。

完

花森先生の次回作にご期待ください。この機会にリアルイベントのレイドボスとして各地の文芸イベントへの出没を企画中？続報を待て

「…操。どういうつもりだ。今日のために金を稼いできたのは何のためだったんだ？」

そう怒気を孕んだ口調で告げる少年の名前は

内海 うみ

鷹斗 たか

足がダクトテープでぐるぐる巻になった椅子や、これまた

ダクトテープが巻かれた足が三本しかないテーブル、ベッドの木枠だけが
立ち並ぶ中庭に面した一室であった。

「今遊んで ゲーム が終わったら中間テストがあるかに決まってるでしょ？そ
してそいつの義兄弟たる期末テストまで控えているから、それで十分で
しょ？」

そう語る洋室なのに布団というチグハグスタイルの少女は銅島操どうしまみさお

「GWで遊んで幸せな気分になったあと、頭から定期テストという地獄に落とされるんだよ？そんな落差に耐えられるはずがない。間違いなく頸椎とか損傷して意識ハッキリ呼吸麻痺で地獄を先取りサービスされて死ぬんだよ？だから、わたしは長い休みという楽しみを今じゃなく、夏まで取って

おきたいの、まあそんなことヘタレのタカにはわかんない」タカトはにっこりと優しい笑顔を作り、敷きぶとんをひっぺがした！

操と呼ばれた絨毯の上にほうり出されて転がり、柱の角に頭をぶつけてやっと渋々起き上がった。

「タカ！もっとマシな起こし方はできないのこのカマ男！！」

みさお

腐れ縁の操は一週間以上先の予定を立てると前々日から前日あたりに突然全てを放り出したくなることがあること。

寝起きにグズグズ言っている時は敷き布団を引き剥がしてやれば良いこと。

庭にある家具は全て操の作品である。

座ると全壊する椅子や、物を置くと図ったように倒れるテーブルを、タクトがダクトテープで使える状態にまで仕上げたこと。

最近ダブルベッドを作ろうとしていること

「こういうことまでわかってしまうのは腐れ縁がゆえというやつだろう。

「起きたならさっさと荷物をまとめておけよ、おれは家の前で待ってるから」

返事がわりに後頭部に愛用の固い枕の全力投球を頂戴したホテル・ニッポニア

操が見つけ出してきた隠れた高級ホテルであり、それ以外は何もわからな
い。きっとレストランの食事が少ない割にお勘定が万単位になり、一。
二、五八九十二とレストランの星の数を数えて落ち着くことになる
だろうと思われた。

ここで二人の時間を送るためにタカトは四月から高校生で塾講師になつた
り、回転寿司屋のハートマン軍曹になり、操は作業服を着てダンボールと
格闘し、作業服とかああいふ服が映えることを知ったりと様々なドラマ

が、もといドラマがあり、操はキャンセル料だけで全てを終わらせようとしたのは今朝の話だ。

実際に入ってみれば、豪華で真っ赤な絨毯 きらきらのシャンデリアと予想通りの品々がお出迎えまでは予想通り

「これは…二人は幸せなキスをして終了ってやつだね」

「こんなもんロビーに置いて大丈夫なのか？愛のホテルじゃあるまいし」

ロビーの中央では素っ裸で絡み合う男女の大理石像が君臨し、

「タカトは見ちゃダメ！あんなサイズが標準と思われたら女性関係を築けなくなっちゃう!!」

「指が目に入ってる失明させる気か！」壁には純金の額縁に収まった肌色率が高すぎるイロイロとダイナミックな男女の絵画がズラリ。

先客は高級スーツに自信に満ち溢れた表情の中年男、相手はコンパニオンな若年女性。

「これはパパ活なんかじゃないね、歴とした浮気だよ」

「目を抉られかけた俺へのフォローはないのかよ？」

なんかイロイロと爛れた方面の高級ホテルなようであった。

そんな二人の格好は学校指定のオイモジャージ。鷹斗には、少し幼馴染の提案に逆らう気合いが必要だったのかもしれない。部屋に着き、荷物をおいてすぐにプールに行くことになった。タカトも操も部屋で水着に着がえたのだが、

「んっふふ、似合う？」

「こんなところで回るなよ危ないぞ」

操がくるくと回転する。彼女が着ていたのはカナリーイエローに白の三本ラインが入ったスポーツ仕様のセパレート。普段から動物並みにアクティブな彼女には似合っている。

操はカワイイ成分が強めの美少女なのだが、ジャージでどこへでも出かけたり、家電製品を分解してネジを余らせたり、何かやらかしてヘルプを求められたりといった日頃の行動のおかげでどうしてもバタ臭い印象が強い。それだけにたまーにこういう女性らしい格好や振る舞いをする、途

端にバタ臭さが綺麗に消えて、純粹にキレイな部分が残るところに奇跡とかそういうものを嫌でもわからされる。操には悪いが、できればもうしばらくは垢抜けないでいてほしいと思う。

そんな鷹斗

カナリーイエローのウェットスーツ。ヘンタイというかプールに行くとタトゥーとかなんか訳あり感がすごい。

操に水着類を選ばせといてアレだが、完全に自分の着る水着を選んだ時点で力尽きた感がすごい。

∴プール行くか。

「ちょっとタカ!! ウェットスーツ一丁の変態スタイルのまま部屋を出るつもり!？」

二人ともパーカーを羽織って部屋を出た

屋外プールはこの行楽シーズンにもかかわらず、貸切であった。

「寒い！」

正確には、誰もいなかった。

現在の気温は8℃。

しかし、コレは異常気象ではない。

二十四節気の「立夏」とは五月五日（日）から十九日（日）まで。夏になり立てに過ぎず、本格的な夏の到来はまだ先なのだ。

ハッキリ言おう、その四日前の五月一日は八十八夜。暦の上ではまだ霜が降りることさえある日である。それからたった四日で夏のように暑くなるはずがない。だから空はこんなに晴れているのに気温一桁とは自然なので

あ

る？

「むしろ好都合じゃない、」

「は、はい？」操は新年のおめでたい寒中水泳よろしくビーチを模したプールにザブザブと入水していく。タカトもそれに続こうとするが、冷たい水が足に突き刺さる。軽く歯を噛み締めながら膝下あたりまでつかったところで、振り向き

側に水飛沫が飛んできた

水滴がウェットスーツ越しの肌に突き刺さる

「普通の水遊びとだいぶ違うでしょ！たまにはこういうスリリングもいい
と思わない？」

「そうかそうか、こんな風にか！」

タカトは手首のスナップを利かせて、操のうつすらと腹筋の浮いたお腹あたり
に、掬い取った冷水を飛ばす。ビクリと肩を跳ねさせた操も同様に、
鷹斗お腹あたりに水を返してくる。それを、交互に、無言で、繰り返す。
…二人のプール遊びは、始まりを告げた。

↓

十分後「

「あああー…温かい水が身に染みるー」

塩素臭溢れる温水のプール ジャグジープール

あれから水のかけあいは五分ほどで飽きた。そのまま肩まで浸かれる深さのとこまで行って泳ぎ回るなどしたのが 操が突然物静かになった。体に触れてみると不自然なほどに身震いをしていた。

低体温症であった。セパレート水着は彼女の魅力を引き出すカナリイエローとはいえ、その本質はデリケートゾーンしか隠さない防水布でしかない。そんな状態で外気温八℃のまま冷たいプールで泳ぎ回っている間、露出してるお肌からバンバン体力を奪われていたというわけだ。

そのまま操をプールから上がらせてこのジャグジープールに連れてきた。水温は四十℃、外気温の五倍、下がった体温を上げるにはうってつけの環境である。

「なんで同じところで遊んでてタカは大丈夫なの？」

「操が適当に……じゃなく心を込めて選んでくれたコイツのおかげかな」ウ
エットスーツは強い。見た目のイマイチさ、防寒能力、海だったらサメに
美味しく食べられる確率全てがアザラシ並みになり、冷たい海に潜って海
の生き物を冷やかしに行ける人類の叡智は伊達じゃねーのであった

「じゃあ今度はあっちの流れるプールに行ってみよう!! きっとあっちに」

「ダメだ。これ以上体を冷やすとたぶん危険だ、戻るぞ」

「ちえつ、タカのいけず」

お湯に浸けて三分で元気になったインスタント食品系幼馴染の提案は無

下にも突っぱねられたプールに行った一時間、けっこう疲れた。部屋に戻り、シャワーを浴びて

元のジャージに着替え、

きのコスパゲッティー（二人分）とシェフサラダ（二人分）をルームサー
ビスで注文した。

「まだ食うな。疲れたところに炭水化物を口にすると眠くなるぞ」そう言
いつつ、窓の方を顎でしゃくる鷹斗。

操が窓の外を見るといつの間にか夕方の気配が漂う空の色になっていた。

バルコニーに二人で繰り出すと、窓の景色は素晴らしくきれいな夕焼け空になり、街の灯りがとりはじめ、すっかりロマンチックな感じになった。

恋人同士でここで過ごすにはもってこいな状態だ。ーいたずら好きね、くすぐったいわ

ーくすぐったい？部屋に戻ったらこんなもんじゃ済まないぞ？

隣のバルコニーにも男女がいる。向こうは…お洒落な大人の男女であつた。

ジャージでこんな場所にいるという野暮ったさを眩しく照らすほどの…

「お互い学校のジャージでなければもっと良かったかもしれないねコレ

「ジャージでいいと強硬に主張した操がそれを言うのか？」

「高級ホテルなのでクラスメイトがいないから学校で噂になる心配もないし、学校関係者はいるとしたら浮気か淫行のため」

「だからおれたちに気づいても指摘できない。から学校のジャージで行っても問題ない」「ほら、そんなふうにあの時も最終的に同意したのはタカじゃん」

「ダメよ、向こうのバルコニーにも人が

——いいよ、俺、誰かに見られてる方が燃えてくるんだ

隣の若い男女はいつの間にかロビーの大理石像のように絡み合っているようである、互いの服に手を掛け一糸纏わぬ生けるエンジンと化した、そう間もなくガソリン爆発のように激しいピストン運動を繰り広げ、

「逃っげろーい……」

「なんでアイツら人前で人間製造業を開業できるんだよ!？」「わたしたちに目をやってからおっぱじめたよねあいつら!」

燃え上がる男女とは裏腹に、きのこスパゲッティとシェフサラダはすっかり冷めていた。

—翌朝—

「チェックアウトする前にもつかいプール行こ？流れるプールで泳いでいいでしょ？」

「トイレついてきて感覚で俺を巻き込むなよ。プールくらいトイレと同じで一人で行ってこい」

そう答えたら無言でベッドから突き落とされた。「操？本気で言ってるのか
外気温は五度しかないんだぞ。水は冷たいんだぞ。わかっているのか？」

「プールが閉鎖されないってことは死人が出ないって勝算がある証!! せつ
かくのホテルのプールを寒いくらいで諦められるかっつの!!」

カナリーイエローの水着で準備体操に精を出すスポーティ少女、銅島操は

：

美しい朝焼けの中、気温五度、なんか白い湯気とか出てる上がれるプールで泳ごうと言うのだ。特殊な訓練積んでる芸能人とかなら平気かもしれないが、ただの素人女子高生では凍ってそのまま流されとかの可能性をもう少し考慮していただけないだろうか？「いいから待て、今一気に飛び込んだりしたら本当に心臓が麻痺して大変なことにあるし、医療行為と称してあられもない姿を医療関係者や群衆に晒すハメになるんだぞいいからやめてくれよお前がこんなところで死んでいなくなるとか考えたくない」

タカトの手を操は振り払った。

「お説教は。チェックアウトしてから聞くから」

始まりの朝日の中、一つの水飛沫が上がった「いいい、今気温んんは何℃だっけ」

「十五℃くらいだね、まだまだ夏日にはほろ遠ひね」

あの後、二人とも低体温のままホテルを離れることとなった。

今日はまた異常気象につき、5月なのに気温が真夏日になると言う予報だが、そうなるのは昼過ぎのお話だ。

それまでは日差しの中でさらに抱き合って体の震えを誤魔化すしかないようである。

夏の始まりとはいえ、ヒートアップしすぎると大変なことになる。妙なところばかりが夏らしい。「タカ、あの顔を赤らめているのはひのうの人間製造カップルだよ!」

「ここ、公開人間製造はやれるのにに、目の前で抱き合われるのは恥ずかしいらしいな、な!」。

それぞれのハロウィン

ブラックベリーが腐ってしまった

せっかくコ○トコにタカと電車で行って買ってきた貴重な果物が、たった五日間冷蔵庫に入れたせいで半分近く腐ってしまった。だが、そんなブヨ
ブ

ヨになっただけで諦められるか！

うん、ブヨブヨのべと甘さの奥にアルコールみたいな香りを感じる。まだ腐っていないベリーの甘酸っぱさとのシナジーでいくらでもおいしく食べられそうだ。

バシッ!!

「痛った!!いきなり殴るとかどういふつもりなのタカ!!」

学校指定のオイモジャージで腐った果実をむさぼる少女は銅島操どうしまみさお

「そのブラックベリーは腐ってるだろ。なんでごちそうですみたいな顔で食べているんだ？」

操と同じえんじ色の学校ジャージだった。美しい黒髪、鼻がすっきりしたあ
ごの細い面長の綺麗な顔、操をたたいた手の脂肪の少なさがその性別を物語
る。

彼は内海鷹斗
うつみ たかと

「タカは何もわかってないわね、野生の動物や虫は新鮮な果物よりもう
いう腐って栄養満点になった果実や食物を喜んで口にするものが多い。そ
して忘れがちだが、人間だって動物なの」

「操はチンパンジーじゃなくて人間だろ。宝の持ち腐れだからもっと立ち
振る舞いを人間に寄せてもいいと思うんだがな？」

「でもさ、捨てる前に一つだけタカも食べてみない？」

「全く…あ、意外とおいしい？」

「でしょ？」

繰り返すが、二人が食べているのは腐ったブラックベリーである。魂のレベルが同列とはこのことかもしれない。今日は十月三十一日。ハロウィンである。

ハロウィンとは人間が威圧的な格好をして「菓子をくれ、さもなければ渋谷に行っていたずらするぞ」という悪魔のシノギを人間が奪い、調伏する慰霊行事である。

：にもかかわらず悪魔を追っ払ったのに人間がゴミをばらまき人を傷つけ呪詛を吐き散らし国によっては人間を鉛玉であの世に叩き込む。悪魔に勝るとも劣らない害を生じさせてという本末転倒にして悪魔召喚の行事となりがちである。

「ハロウィンとは渋谷で悪魔を召喚し、人間に銃をぶっ放し、時にぶっ放される血塗られた行事じゃないんだよな」

「ハロウィンにかこつけて外国ではカジュアルに人を射殺？リアル世紀末の岡山や渋谷も世界的には理想郷に近いって変な気分」

操ハウスの台所、冷蔵庫から二人分の食材を取り出しながら

「だったらいいんだがな、外国では日本じゃ半笑い会釈でやり過ごすところでバーン！と「殺す殺される」の関係になるし、それがハロウィンでも通常営業だから怖いんだ」

『ろすされる』？…「殺す殺される」ってダイレクトの方がわかりやすいかも」

だから外に繰り出し露出を増やし、殴り殴られ殺し殺される血塗られたハロウィンがあるならば、二人で秋の食材をお料理して過ごすハロウィンもある。これこそが二人のハロウィンと言える。

操が作るのはカボチャのアイスクリーム

つぶしたカボチャをアイスに混ぜて冷凍庫に放り込むだけ。もともとは幼稚園の幼稚園児向けの本に書いてあった製法であり、あれから十年以上経ったいまでも立派に通用する。

「操はなにそんな高級アイスクリームを混ぜるだけのくだらない工程に使うとは！」

鷹斗が作るのはサツマイモのアイスクリーム

こちらは牛乳と生クリームと砂糖と卵を混ぜ合わせて、最後にあらかじめつぶしておいたサツマイモと混ぜて冷凍庫に入れるだけ。

「アイスクリームにそんな高い卵を使うの！？平飼いのナチュラルエッグなんてご飯にかけるのが一番美味しいのに！！」

お互いにアイスクリームが大好きだし、お互いに理解できないこともある。

次の料理は公園で拾ってきた野生の栗のマロングラッセ。これまでは調理と称して冷蔵庫から出した食材を混ぜて冷凍庫に戻す以上のことをしてはなかったが、今回は食材からして違う。

野生の栗は、小粒である。はっきり言って市販の甘栗に比べるとよりその小ささが目立つ。しかし、その甘みは栽培グリよりずっと濃密であり、さらには深い滋養というか深みを感じる！

…らしい。

「金曜日に丸一日放置しただけでこうなるとは…」

そう呟くタカの視線の先には袋いっぱいに生きたカール、つまりは栗虫が
ウネウネと蠢く地獄絵図であった。

うっかり煙で燻されることも、お湯で煮られることもなかった野生の栗を
放置するところなる。

「ねえタカ、せっかく集めてきた栗をたかがイモ虫くらいで諦めたくな
い」

「だな」

「そういえば、ハロウインは動物の犠牲をささげていたらしいし、ね？」
数分後。

同レベルの二人はすでに鍋の中に入れたサラダ油を煮えたぎらせていた。

「基本はフライドポテトと一緒に。塩は揚げてから振る。」

タカがその中に生きたままの栗虫をドバドバと注ぎ込んでいく。

虫などのワイルドな食材を食べるのには「焼き」をイメージするかもしれないが、これは食感、苦み、悪臭をカバーできず、口に入れて三秒でリバーズすることも多い。実はその点、「揚げ」は全てをカバーする。のだ。…という知識はいつのまにか单身キャンプに行っていた操から授かった。

「やばいぞ、形はイモムシなのに不覚にもパチパチ鳴る音はホントにプラ
イドポテトみたいだ！」

「ビジュアルに不満があるなら、すり鉢でグチャグチャにして団子とかポ
テトチップみたいなユニバーサルデザインにしておけば」

「その作業中にこっちは間違はなく吐く自信があるんだよ。目の前でウネ
ウネ系の虫を潰すとか俺が操にやったら虐待になるんじゃないあ？」やがて油

の中からひき上げられ、ずらずらと並べられる栗虫の素揚げ表面から虫独特の光沢がなくなったのを除けば、カールそっくりの原形をキープしている。

タカと操は顔を見合わせ

「一緒に食うぞ。3、2、1で行くぞ」

「㊂」

「2」

「1」

「ゼロ、でやっぱり食わなかったな！！先に俺一人に食わせてモルモットにするつもりだったな操！！」

「かくいうタカもためらったでしょ!!! 私一人だけに食わせようと
て!!!」

二人は（火にかけた油の側で）軽めの殴り合いになったが、それで本題から逃げられる訳ではない。

さて、栗虫の実際のお味は？

十月三十一日。

渋谷の様子はテレビで見るに限る。

興味のないスポーツ番組や犯罪と死者を視聴者が何より求めていると信じ
疑わない世紀末な報道番組などやらないこのチャンネルが一番だ

ー十月三十一日、今夜のクレイジーアイズTVは見逃せない！！

ぞうきばいばいあくましゆうだん

―恐怖！ハロウインの渋谷と臓器売買悪魔集団！―

―悪魔の皆さん。悪魔は最近生贄を求めなくなり、なぜか金銭やマグネタ

○トを求めるようになったと聞きましたが。「はい、信用経済の社会において貨幣とはそれそのものが信仰心の結晶。

つまり悪魔が金を欲するのは何ら矛盾を生じないのです」

「そして古来のような生贄や血を好む悪魔と今を生きる悪魔たちが手を結び、換金性の高い生贄を募るこの儀式を始めるに至りました」

「あるよくあるよく心臓が二十個あるよ！ドナーも渡航費もいらないう！
こう言ったら人間はみんな大喜び！悪魔とはまったくもって人に喜ばれる職業です」

「ああ、その心臓は全部俺のもんだ。人のものを勝手に売り払うな」「酒や煙草をやらない若者の臓器を根こそぎ奪い取れ！！」

「やありア充くん、君のすい臓を頂戴？」

「心臓を。プリーズ。嫌なら殺してからお前の死体からぶち抜くから手間が増えるだけサ！」

「お前らの腹の中にはお前らが一生働いたって手にできない金が詰まってる!! さあ、よこせ!!」

「最近の若人間はヘタレだからせ（ピー）もろくにしないボールなしばかり! つまり、私みたいに昔ながらに生き血を残らず搾り取ればがっぽりヨ!」

「「「「うわあああああ!」」」」

「……意外といけるな栗虫」

「マロン風味のポップコーンみたい、山栗を食べてるからちゃんとおいひんだね」

さつまいもとカボチャのアイスクリーム

栗虫の素揚げ

野菜室の奥から見つかった傷みかけて柔らかなキウイベリーの盛り合わせ

こうして渋谷には本物の悪魔が到来し、物騒なテレビ番組（フィクションです…よね？）の最中、ハロウィンは過ぎていく

秋の実りの隣に腐った果実や虫の料理をならばえろという収穫祭だか悪魔崇拝なんだかわからない夜は過ぎていく。

それぞれのハロウィンの光景であつた。

―次の番組は実録クリスマスドキュメンタリー―

「早すぎたクリスマス。黒サンタの最速お仕置き珍道中―アナタには血まみれの内臓がお似合いよ！この消費者マインドブタ野郎！―」をお送りいたします

アンドロメダによりしくーライフサイクリング・クライミングー

100

自分は、花森遊梨。この本をここまで読み進めてくれて本当にありがとう。
う。

自分なりの恋愛に対する結論を述べて締めくくりたいと思う。

恋愛と生きがいとは別である。恋愛が好きな人はそれが好きで何より、だが
自分は恋愛を好きになれそうにない。だから恋愛は結婚前の共通テストの

ように必要だからやることとして、生きがいとは別に探しに行きたいと思う。この作品は以上だ。

しかし、ここでこの本を終わらせるには問題がある。

「そう思うならセンパイも私を好きになってくださいよ?」

恋愛そのものが女やイケメンを差し置いてメンヘラ化することだ。

「生きがいを感じたいのはワ○ミ社員の無理とおんなじ嘔吐きだったんですか?」

突如目の前に現れた地雷ファッションでキラキラしている少女、腕まくりしたら手首がギロミたいになってそうな少女の名前は恋愛ちゃん。顔も整っているし、自然に繰り出せる笑顔の際に見える白い歯並びもバツリ。ぱっと見は魅力的、陽キャラには簡単に手に入れられそう感を、陰キャラには僕でもなんとかなりそう感を与えてくれる。が、付き合ってみるとまあ面倒くさい。なぜなら恋愛の化身だから。これをここまで読む読者ならお分かりだろう。正直めんどくさいやつですと言うと「あなたも結局自殺しちゃうワ○ミ社員の無理とおんなじ（略）」とメンヘラ化する。そ

のメンヘラパワーでこの社会に「恋愛やそれに伴う結婚こそが至高」と死んだ目でも提唱させ、鋭利な刃物を突きつけられた世の中は震えながら恋愛している人をモデルケースにしてくるのである。――この世界に恋愛をする理由があるというのなら、花森遊梨――この世界に恋愛をする理由がないというのなら、恋愛ちゃん

それと一緒に探しに行こう。決着をつけてやる。

喫茶室コーニーズ。どこかの喫茶室のように名画が似合う喫茶店を目指して作られた。店主自慢のコレクション「エマオの食事」を中心に東アジアで作り出された様々な世界の絵画を店に展示している。ーコーニーズブレンド

「恋愛は資格みたいなものだからだ」「これがないとゲームクリア不可能」などということはないのだ」

「いきなりさとり世代宣言ですか？」

「挑戦者は多く成功率自体も低いが、成功したとしても100%幸せになれるとは限らない」

いきなり据わった目で語り始めるのは花森だ。

「場合によっては債務を抱えたり、不幸になることもある。恋愛する目的がまだ卵子が使用可能うちに精子が欲しいなど、具体的な場合は良い。

しかし恋愛を通して自分を好きになって性格が明るくなるとか「人生の好転」を期待している場合は要注意だ。恋愛をしない状態を維持するという

のは逆に「恋愛さえすればなんとかなるはず」という希望を持ち続けることができないのだ。それが何かの間違いで成功してしまったりすると「恋愛してもどうにもならなかった」という絶望を手にするし失恋すれば「やはり恋愛も人生もダメである」となり精神科医か埼京線通勤快速どっちの飛び込みショーに
 発展してしまう」

106

「あ、読み始めるのはここからで大丈夫です」

恋愛ちゃんはいつになく事務的な口調から、普段の甘めの口調に切り替え直す。

「いやいやいや恋愛ってのはそこまで必需品じゃあないんですよ？ 快樂と甘美を伴う趣味の最たる」「恋愛ってのはそう言って気軽に趣味を自称して人を騙すからダメなんだよ。スポーツやデイズニールランドと同カテゴリー、人生に食い込んで真っ黒な病巣を広げるタイプの趣味だからよ、純真な子供の頃か、若くてオツム空っぽの大バカ時代に触れられなければ今生ではドロドロの拒絶反応しか

ないのだよ！」

「そこまで絶望的なものに見えるってんですか？」

隠す気すらない舌打ちに、花森は動ずる様子すらない。

「当然でしょ？常識でしょ？あたりまえでしょ？知恵がついた後に見れば東京ネズミの国も海水ネズミの国も昼の球遊びも夜のタマ遊びもみーんなクソまみれのインドも同然よ！！着ぐるみ着込んだだけの汚い中年を見るために高いカネを払い、タマ遊びができるだけの陽キャラをみるために馬

鹿げた高額金を奪われ、いつ別れるかわからん異性のために現金を収奪され、炎天下や氷点下の行列に並ばされて、騒がしい乗り物に押し込められ、飲み食いから土産まで全てがボッタクリ価格、日本政府レベルで人の金を搾り取るくせに、そこには理由のないぬるさと無駄にラブラブな感じと一体感に満たされている！あんな大麻文化がないインドみたいなところでなに

をどうやってたのしめと？」

「（ゆるさと無駄にラブラブな感じ、それこそがとりこぼしてきたものなん
ですけどねえ、可哀想に）」
110

―大人の贅沢 カカオ・オーレ 「遊梨にだって頭が空っぽで自意識が虫ケラ
並みの学生時代だってあったわけじゃあないですかあ？そんな時には一体な
にやってたんですか？」

「現れるのはイベントのみ。体育祭に文化祭から学園祭、あらゆる行事に
最初から後夜祭まで、時には打ち上げまで居座っていたとも」

「ほら!!」

「時間が来たら早々に退場した顔と名前以外は誰も知らない存在としてクラスメイトや同級生の記憶の中のみで生き続けていた」

「お前恋愛しろ!」

「何を言う、こういう人の集まりとは、とは夫婦の手帳に「子どもの独立を機に離婚する」と明記されている夫婦のようにやることの終了と共に関係

も終了するものだろう」

「ホームラン級のバカですね、遊梨は」目が座るのは恋愛ちゃんの番だった。

「なんのためにみんなで学生時代に理由があれば越冬するテントウムシみたいにあつまって、成人するや否や酒飲んでると思ってるんですか？『お友達や恋人は無理でもとりあえず一発やりましょう』と酔った勢いで言ってるアホ同士合意して中出しして互いの人生腹据えて考え直すためにあるんですよ。それができないなら打ち上げのメシなんか喰うな！一気飲みして酔っ

て転んでゲロを喉に詰まらせてダメ押しに硬膜外出血で死ぬべきだったんですよこのアホたわけ!!!」

「自分にとって人の集まりは兵役も同然の義務にして苦役なんだ。そこから無事に帰宅したのは「両足をコンクリートで固められて東京湾にダイビングしてから奇跡の生還を果たした」に等しい!!そこで恋愛もせずに帰ってきたとか無茶苦茶がすぎると思うのだから」

「そのあなた達、隣のホテルで、朝まで一糸まとわぬ姿で語り明かしま
せんか」

若い男の声が響いた

「俺たちとつきあう女は幸せになるんだよ」

男たちは清潔に整えた細面揃いで、痩せて引き締まった身体つきに、テー
ラードジャケットを織っている。しかし、どうも体つきに反して着ている
ものが浮いている。はっきり言うと、「着られている」感がどうしても否め

ない。「すいません、もうツレがいるんでごめんなさい。特におまえら
みたいな付き合う前から態度がラージな何様男ほどチン○がミクロで夜は
倍速早撃ちキッドなんだよ！わかったら失せなよイオンにすら見放された
地域を巻き込んだ立ち枯れ野郎ども」第一印象と妄想と言いがかりだけで
殴り掛かれるファイトスタイル。まさに非リアである。

「彼ピは今トイレ中なんですよ。戻ってきたら六人一緒に明日の楽しんでもいいんですけどお、どうしますう？」恋愛の化身はスケールが違った

「り、りよ、両刀使いな上に複数プレイも余裕なんて聞いとらん!!」

「都会ん女はえずか!!おらさ田舎に帰るべー!!」（訳・こんな恐ろしい都会の女と同じ街になんかいられるか!!俺はイオンのない田舎に帰らせてもら

う
!!」

男たちは二秒で退店し、店内には平穩が戻った。

「やったよ、恋愛のメリットだ、『彼氏彼女にも聞いてみないと』って言うと、ナンパからセールスから勧誘までやんわり確実に断れること。これに関しては間違いない」

「これに関してはすごく便利ですよ！遊梨が恋愛未経験のくせにこれだけは今でも使ってるくらいですし」

「ロクでもないことをバラすな！！絶対に校閲にこの辺カットさせてやる！にしてもなんでだろうね。体育の時の生理と同じで、彼氏彼女のことを言うと、たいてい納得してもらえるの」

『毎週二回もあるとかどんな生理周期だよ今すぐ証拠を見せろ！』と言われたら「お巡りさんコイツ痴漢で淫行です」と通報すればいいですし、似たようなこと彼氏彼女でやられても商品買ってもらえないし入信してもらえないでしょうし」

「でしょうね。ま、恋愛っていいこともあるけど自分にとってはそんなモンなのよ。最近の世間が重度のキモオタ脳のせいで、人間が一人でいるのと声優とVチューバーが異性と二人になるのには必ず強い理由が要る。だから心にもないことばっかでっち上げてたつてのが本当のところなのかも」

「そのためにネズミの国とスポーツとインドと私はセンパイにデイスられたんですか?」「お前もあいつらもみんな「持てるもの」だから仕事と

してトーゼンでしょ？自分みたいな持たざる者に妄想と言いがかりだけで肩パンされるのも高い金のお仕事のうち!!」

「ネズミの国とスポーツとインドの関係者は、遊梨が「このくらいならいいだろう」とこの本の売上の申告を怠って、追徴が結構な額になってから税務署に家庭訪問された後にわざわざ横須賀線で飛び込み自殺すればいいって思ってるでしょうね、もちろん恋愛担当の私も」

ーちょっと固めのレトロプリン

「真面目な話、恋愛には、あまりメリットを感じないのよね」ひとすくいでプリンの半分以上を口に入れてから、花森は続ける。「恋愛、恋愛言うわりにソロが増え続けてるのは、時間がないとか経済的な理由もあるだろうけど、十数年近い時間をかけて曲がりなりにも身を立てたり、口に糊していけるようになったライフサイクルを、自分から手放すのは男も女も難しいっていうのがあるんじゃないかと思うわけ」

ため息混じりになった花森に対し、恋愛の化身の声はいつになく落ち着いていた。

「えー、ここでひとつセンパイに提案です。いっそ登山サークルに入ってみるなんて、どうでしょう」

「これは話に飽きたオタクが突然自ジャンルの話を始めるムーブなの？」

「人の話を遮らずに最後まで聞けないんですか？そんなだから遊梨は未婚の絶滅危惧種に身を落としてるんですよ？」

「ハイ」「登山サークルは、センパイが恋愛に対して抱く懸念の全てを克服しています」

「人間関係だけじゃなく、美しい花に鳥の声も風の音に、月の光、自然に目を向ければ進研ゼミみたいになると？」

「普通のライフサイクルと離れるタイミングをつくるんです。センパイは現状では別に恋愛をしたいと思わないし、誰のナニを見ても恋心が燃え上

がることがない。それはセンパイは一人で生きて稼いでのサイクルを約八十年くらい繰り返したら死ぬというライフサイクルが生活していて、掛け値なしで恋愛をしなくても暮らせるようになっていきます。そして、それを脅かしうる自分以外の人間に関心が向きすぎて、何かあればすぐに敵とみなせる回路まで確立されちゃってるんですよ。それが恋愛も含めた人間不信にもつながっています。だからまずはそのサイクルから離れることから始めましょう」

「そういうサークルに属するには社会性が足りないような気がするし…」

「社会性に関しては欠落してるところかむしろ強いじゃないですか、恋愛に関して腰抜けなだけで学校行事や人の集まりには欠かさず参加できています、やることなすことが決まっていれば、相手が陽キャ・クラスカースト上位連合軍でも、サークルほぼ全員と肉体関係に及んだモノノフ女とかでも、遅れをとらずに立ち回れているじゃないですか」「だが「自由時間だから自由に話せ」と言われたらもうアウトだ。クラスカースト上位と百人斬りには「ただし遊梨、てめーはダメだ」ときれいなハモリで言われる

し、瞬時に所在を失って帰宅する以外の選択肢は無くなるし、そのまま帰宅途中につけものと一緒に犬に食い殺されていたことが判明す

るのは来週になってしまふ」

「山男・山ガールは人間オンリー勢とはかなり違います。登山という人と集まるけど大体自分とソロ活っていうのをやってるだけに、自分一人のペースも生き方も確立している猛者揃い、今のセンパイと一緒になったとしても、それぞれのライフサイクルの持ち主が生活をシェアしてて、気が

向いた時だけ二人で会うみたいないい感じの関係が築けそうじゃないですか？」「そんなもんなのか？」

「それに、もし恋愛に発展しなかったとしても、別にいいと思うんです」
いつの間にか地雷ファッションの少女は消えていた。

―そういうサークルの中には裏く達観した人がいたり、経験のある人がいたり、そういう人とダイレクトに接するだけでも何かが変わると思うんです。

す。

一方的な知り合いのサークル二つのために行ったもじのイチがセンパイを
ここに導いたように。

二つだけのコーヒークップと、手つかずのプリンが残された。

―遊梨みたいな恋愛をしない人の人生は弾丸登山が過ぎるんですよ。さみ
しくなんかない、さみしくなんかない、へーきへーきって、日々高みを目
指し、上り詰めるうちに、いつの間にか引き返せなくなっちゃう。とんで

もなく難儀なことですよ。富士山もヒマラヤも登るだけなら一人でも酸素なしでも補給なしでもわりと簡単。でも本当に難しいのは登り切ったその後、山は登り切ったら降りて、生きて人里に帰ってくることに。そうして初めて登り詰めたというものです。

この世界に恋愛をする理由があるというのならこの世界に恋愛をする理由がないというのなら

それと一緒に探しに行こう。

今度は、
あなたも。

あとがき

今度こそラストになります。

これを書くにあたっていろんな人の話、特に自分のマイクロテクノロジーレベルの細いツテを辿って恋愛している男女の話の話を聞きました。ここどこぞのペンギンVチューバーだの野球ゲームイラストレーターみたいに見たいに私たち核融合してますってレベルの熱々カップルに触れてオルフェ

ノクよろしく灰になって死に、恋する文学 Book Store マルシェの
サークルが一つ減って、無断欠勤とみなされて仕事を全部干され、アメリ
カの政権が変わった頃にようやく警察が介入してこの原稿も死後数ヶ月後
に灰の山から発見され、回し読みした警察関係者の顔がチベツトスナギツ
ネと化するなどすれば芸術点マックス。我こそがメダリストでしたが、類
は友を呼ぶというべきか、驚くほど平熱の男女ばかり。

それはそれで、恋愛という必須ではないもののために突然早死にしたり突発的に事件を起こすことを回避した反面、自分だけが恋愛に対する幻想というブロリーを自分で育てておいてどつき回されて一人用のポッドに逃げ込んで殺されるパラガスをしているという特異性が浮き彫りになって屑鉄ヤードの廃車並みに心がベッコベコにひしゃげ。

閑話休題

そこで出会ったものが、「恋愛してよかったことは「彼氏に聞いてみないと・彼女にも相談しないと」って言うところゆる勧誘やセールスをやんわりかつ確実に断れること。恋愛するのはこのくらいのモンだよ」でありました。未経験の恋愛だのそれに対する幻想にやられて思い詰めていただけに「恋愛ってのはこのくらいのモンだよ」と言い切れるのは幸せだと思えたし、側から見ても冷めているんだけど全然大丈夫って温度感。それが共通認識になってるバディって掛け値抜きですげえなって思えたし、こういう関係に慣れたらお互い推せるなって思いを新たにできたわけです。

恋愛は無条件かつとりあえず尊いとみなされることで、かえって害毒になったり、視野を狭くさせてしまうみたいなのとがあり、他でもない自分自身がそんな「恋愛の幻想」にズタボロにされてることもあり、自分の既存作品からあえて「そんな尊くない恋愛」をあつめ、最期に自分のうちに巢食う恋愛観と文字通りぶつかり合った結果がこの一冊となりました。

最後に、

自分を苛む恋愛の幻想と決着をつけるきっかけをもたらし、「ブラックジャックによろしく」の影響だと目でわかるタイトルを決めるきっかけとなった」

―アンドロメダ超えて君へ―の作者、天野蒼空氏へ

イベントに参加するというライフサイクルを、そのためのインナーマッスをリアル植物だった花森にもたらし

―水平線文庫のまべひろた氏へ

この場を借りて感謝を、
ありがとうございました

